

高岡の図書館

第101号

2016. 7. 1

編集・発行 高岡市立中央図書館（〒933-0023 富山県高岡市末広町1-7） TEL 0766 (20) 1818 FAX 0766 (20) 1819

高岡御車山祭

高岡御車山会館 館長 林 昌 男

「高岡御車山（祭）」の魅力是一年通して肌で感じてもらうための施設として、昨年4月に「高岡御車山会館」が山町筋（守山町・利屋町地内）にオープンいたしました。私自身は山町に生まれ育ち、そのご縁から開館時から館長を務めさせていただいており、「高岡御車山」の魅力を発信するお手伝いできればと願っております。

「高岡御車山祭」は、毎年5月1日に行われ、「御車山」を実際に見て、祭りの高揚感を体感することができるのは、一年の内での一日だけでした。御車山会館では、一年を通して祭りの雰囲気や伝統工芸の素晴らしさを体感していただけるよう、実物の「御車山」を年間通して展示しています。

会館には、昨年4月25日のオープン以来、今年のお祭り時までの1年余の間に8万人近い皆様にご来館いただきました。この間、市内県内の方々はもとより県外、更には多くの外国からの方々にもご来館いただきました。特に今年は、お祭りが日曜日と重なり、北陸新幹線開業・会館のオープン時を上回る県内外から多くの皆様にお越しいただきました。改めてお礼申し上げます。

ここで、観覧された方々の感想をいくつかご

紹介します。「高岡にこんな素晴らしいものがあるとは知らなかった。見に来て良かった。」「日本全国で5件しかない国の重要有形・無形民俗文化財の両方に指定されているものとは思っていなかった。」「実際に見てみると、想像していたよりずっと細工が細かくて繊細で迫力があるね。」などです。

高岡御車山は、昭和35年には「御車山」そのものが重要有形民俗文化財に、54年には「御車山祭」が祭り行事そのものとして重要無形民俗文化財に指定されました。さらに、昨年の開館時には「日本遺産」の第一次認定を受け、今秋には「ユネスコ無形文化遺産」への登録が予定されています。

現在、当会館では、「ユネスコ無形文化遺産」登録を契機とした企画展示を計画しており、図書館所蔵の書籍等を参考とさせていただいております。今後とも、全国の祭りや伝統文化に係る書籍の充実を図っていただき、会館の展示充実に繋がればと願っております。

今後は、高岡御車山祭の歴史や文化、更には高岡の伝統工芸技術を多くの人に知ってもらう情報発信基地としての役割を担っていきたくと思っており、各位におかれましても更なるご支援をいただきますようお願い申し上げます。

約 400 年の伝統を持つ「高岡御車山祭」

高岡御車山会館 学芸員 中村知子

高岡御車山祭は、毎年5月1日に執り行なわれます。5月1日は、高岡関野神社の春季例大祭の日です。祭礼当日は、御車山揃えと奉曳（曳き廻し）、高岡関野神社の神輿渡御（神輿が進むこと）が行なわれます。

御車山祭は、加賀前田家2代当主・前田利長が高岡城下の町内に御車山（豊臣秀吉が聚楽第行幸のときに使用した御所車といわれている）を与え、高岡関野神社の春祭（御車山祭）に神輿の巡行に伴って奉曳したのが始まりといわれています。御車山は、明治時代前期頃まで神輿を中心とする祭礼行列に加わっていましたが、現在は別々に廻っています。

御車山祭は、御車山が曳き廻される祭礼当日のみに目を向けられますが、春寒い頃から準備を始め、祭事が執り行なわれています。約400年の伝統を持つ御車山祭の行事を紹介します。

御車山祭の運営は、御車山を保有する9町（通町、御馬出町、守山町、木舟町、小馬出町、一番町、三番町、源平町、二番町。ただし、一番町、三番町、源平町は3町で1基「一番街通」を保有）に坂下町を加えた「山町10カ町」で行なわれます。坂下町が加わっているのは、奉曳の際に「露払い（行列などを先導すること）」として御車山を先導する源太夫獅子を保有しているからです。各山町から高岡御車山保存会の「理事」（2名）を選出し、その中の2カ町が「年番」として祭の総括責任者となります。

毎年1月25日、高岡御車山保存会総会が開催され、その年の代表となる年番が引き継がれ、「会長」が選出されます。

3月から4月にかけて、花傘づくりをします。とても労力がかかり、約2ヵ月をかけて仕上げます。花傘（菊花）には、約2,000枚もの和紙（赤・黄・白）が使われています。また、囃子の稽古も始まります。囃子を奏でる楽人は山町の人ではなく、特定の地区の人に代々受け継がれています。

4月3日、高岡関野神社境内の撰社前で祀られている津幡屋与四兵衛（江戸時代後期、高岡御車山の由緒格式を守ったとされる）の御霊

「^{まごころいやすめうしのみこと}弥真進大人命」を祭神とする神事（与四兵衛祭）が挙行されます。神事に引き続き、山町間の打ち合わせが行なわれ、当年の御車山祭の詳細が決定されます。

祭礼前日の4月30日までに、高岡関野神社境内下の山蔵（収蔵庫）から地山や装飾具など御車山の部材を出し、各町の山宿（御車山を一晩お守りする邸宅）前に運ばれます。山宿では、人形・幔幕の飾り付けが終了した後、宵祭が行なわれます。入魂式の後に囃子を奏で、酒を振る舞い、煎餅などを配り、訪れる人をもてなします。また、山町内に設置された臨時の山倉で御車山のライトアップ展示も実施しています。

祭礼当日の5月1日、7基の御車山は早朝より各山宿前で組み立てられ、美しく飾り付けられます。出発の前に修祓（清めの儀礼）を行なった後、自町内を曳く町内曳き、午前11時までに坂下町に集まります。御車山が所定の位置に着くと、各町の代表者は坂下町の集会所に入り、一同揃ったところで手打ち式を行ない、曳き出しを指令します。

出発は午前11時20分で、旧慣に従って高岡関野神社の曳き別れまで市内中心部を奉曳します。

奉曳の順番は、通町を先頭とし、御馬出町、守山町、木舟町、小馬出町、一番街通が、その後続き、しんがりは二番町となっています。御車山は雅やかな囃子や車輪の軋む音を立てながら、ゆっくりと曳き廻されます。曳手は山町の人ではなく、近郊の地区にお願いしています。



正午の「勢揃い」

やまやくいん 山役員（山町の人）は一文字笠をかぶり、あさかみしも 麻袴に身を固めて各御車山の前後左右を警護し、飾り山には町内の子どもが袴姿かみしもすがたで乗っています。

出発してまず始めに、坂下町の坂を途中まで上がります。これは、高岡城がまだあった頃の城内参拝の名残といわれています。

正午、片原町交差点において、源太夫獅子と7基の御車山が横一列に勢揃いします。御車山祭の一番のみどころです。高岡御車山保存会の理事をはじめとする山役員が高岡市長の前に整列し、会長と市長が挨拶を交わします。このあたりは加賀藩政期、御貸屋（町奉行の役宅）があり、山町役員が町奉行の所まで挨拶に行くと伝えられています。勢揃いは町奉行への挨拶の名残といわれています。

奉曳の途中に特別の功績があった人の家や山役員宅前では御車山を玄関に向け、神楽を奏でます。これを所望しよもうといいます。所望を受ける家族は、正装して玄関前に整列し、頭を下げて1基ずつ神楽奉納を受けます。また、二番町では津幡屋と四兵衛旧宅前で、必ず所望を行なうことになっています。

午後6時、高岡関野神社前で曳納の奉納が行なわれ、それぞれの町の山宿へ帰っていきます。

祭礼が終了すると、御車山を解体し、山蔵に戻ります。



御車山の行事は、時代の変遷のため、少しずつ内容は変わっているかもしれませんが、約400年もの歳月を山町町民の心意気により護り続けられてきたものであるといえます。御車山の曳行とそれに関する諸行事は、富山県西部に分布する曳山行事の中でも規模が大きく内容にも特色があり、屋台を用いた祭礼行事の代表的なものの一つであると評価され、昭和54年（1979）2月3日、国の重要無形民俗文化財に指定されました（指定名称「高岡御車山祭の御車山行事」）。

現在、高岡御車山祭は、ユネスコ無形文化遺産登録候補になっています。昨年、日本政府は山車や屋台が巡行する祭礼のうち、国の重要無形民俗文化財に指定されている33の祭りを「山・鉦・屋台行事」として取りまとめ一括して提案しました。今年、ユネスコ政府間委員会において登録可否の審議が行なわれる予定です。



高岡御車山会館は、一年を通して高岡御車山祭の魅力伝えるため、昨年の4月25日に誕生しました。会館は、「展示棟」、「土蔵棟」、「ガイダンス棟」に分かれています。

展示棟では、7基ある御車山を1基ずつ4ヵ月交代で実物展示しています。また、御車山の歴史や文化、施された工芸技術について映像や体験コーナーなどを組み合わせながら紹介しています。



展示棟：御車山の実物展示（通町）



展示棟：体験展示 体験！御車山囃子

土蔵棟では、富山県内最古級の土蔵を展示に活用しています。「大の蔵」では“山町と佐渡家”をテーマに、高岡最古の医家である佐渡家について展示しています。「中の蔵」では“山町筋と土蔵”をテーマに、山町や当蔵の建築、復原について展示しています。ガイダンス棟では、飲食・物販といった各種のサービス機能を取り揃えています。

ぜひ、会館に足をお運びいただき、御車山祭の魅力や山町の歴史に触れていただきたく、お待ちしております。

ふるさと情報コーナー

高岡関係資料情報

平成 25～26 年度に発行された図書や雑誌・新聞に掲載された高岡関係資料のうち、図書館で把握できた文献の一部を紹介いたします。(配列はおおむね富山県郷土資料分類表に準じ、論題名・執筆者(敬称略)・資料名・巻号数・出版年月の順に記載しました。)

郷土の文化 第 39、40 輯

(平成 26、27 年 富山県立図書館、富山県郷土史会共編 富山県郷土史会刊 平成 26 年 3 月、27 年 3 月)

富山県郷土地図総合目録 (富山県図書館協会編刊 26 年 9 月)

富山県図書館研究集録 第 46 号 (富山県図書館協会編刊 27 年 3 月)

古今集序爪櫛 五十嵐篤好著 (金井利浩、綿拔豊昭編 桂書房刊 25 年 11 月)

越中史壇会創立 60 周年を迎えるにあたって 越中史壇会 60 年のあゆみ (米原寛 富山史壇 175 号 26 年 11 月)

井口本江遺跡発掘調査報告 都市計画道路能町庄川線街路総合交付金事業に伴う埋蔵文化財発掘報告 I

(富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第 57 集)

(富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所編刊 25 年 12 月)

出来田南遺跡発掘調査報告 都市計画道路能町庄川線街路総合交付金事業に伴う埋蔵文化財発掘報告 II

(富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査事務所編刊 27 年 3 月)

棚田家文書目録 (高岡市教育委員会編刊 25 年 12 月)

佐渡家資料目録 (高岡市立博物館編 高岡市教育委員会刊 27 年 3 月)

高岡鋳物の製作用具及び製品目録 (高岡市教育委員会文化財課編 高岡市教育委員会刊 27 年 3 月)

中保のあゆみ (中保のあゆみ編集委員会編 高岡市中保自治会刊 25 年 12 月)

高岡市史料集 第 25、26 集

(高岡市立中央図書館古文書を学ぶ会編 高岡市立中央図書館刊 26 年 3 月、27 年 3 月)

高山右近による高岡城縄張伝承の検討 仁ヶ竹亮介

(高山右近 キリシタン大名への新視点 中西裕樹編 宮帯出版社刊 26 年 3 月)

とっておき埋文講座 高岡城跡の実態 田上和彦 (埋文とやま 130 号 27 年 3 月)

伝承を尋ねて 第 55 回 城端線でめぐる郷土史(Ⅲ) 南砺市 樽谷雅好 (V I T A 98 号 26 年 9 月)

同第 56 回 「木曾殿と、親鸞聖人との交錯(新潟県上越市など)」樽谷雅好 (V I T A 99 号 26 年 12 月)

同第 57 回 獅子舞の胴体は、なぜ長いのか? 一百足獅子の系譜—富山県西部など 樽谷雅好 (V I T A 100 号 27 年 3 月)

《富山市×高岡市》戦争が両都市の運命を分けた? 浅井建爾 日本全国因縁のライバル対決 44

(主婦の友社 27 年 2 月)

富山県における学童集団疎開—戦争、子ども、地域と地域の観点から (須山盛彰著刊 26 年 1 月)

報道写真集開業北陸新幹線 3.14 北陸が歓喜と熱狂に包まれた日 (北國新聞社刊 27 年 3 月)

新指定の文化財 有磯海(女岩)、高岡城址 (月刊文化財 605、617 号 26 年 2 月、27 年 2 月)

うるしうるわし高岡漆器 伝統工芸高岡漆器協同組合設立 40 周年記念誌

(伝統工芸高岡漆器協同組合設立 40 周年記念編集委員会編 伝統工芸高岡漆器協同組合刊 27 年 2 月)

加賀藩主が参勤交代の折、喉を潤す 殿様清水(高岡市福岡町)富山の風景

(グッドラックとやま 440 号 26 年 7 月)

大伴家持、木曾義仲、前田利長 川口素生 途中下車で尋ねる駅前の銅像 銅像から読む日本の歴史と人物

(交通新聞社刊 26 年 10 月)

GEIBUN 5、6(平成 25、26 年度)富山大学芸術文化学部卒業研究・制作 芸術文化学研究科修了研究・制作集

(富山大学芸術文化学部 卒展委員会編 富山大学出版会刊 26 年 3 月、27 年 3 月)

産地の「技」が輝く菅笠 越中福岡スゲ生産組合 富山県高岡市(J A いなば管内)

(家の光 90 巻 4 号 26 年 4 月)

高岡市伏木北前船資料館・北前船回船問屋「森家」 榎本慶彦

(北前船と尾道湊との絆 文芸社刊 26 年 7 月)

美のこころ美のかたち(久泉迪雄の本) 久泉迪雄著

(桂書房刊 26 年 12 月)

高岡工芸学校創設者 納富介次郎の前半生 久保尚文

(近代史研究 38 号 27 年 3 月)

前田はなぜ 100 万石なのか 本郷和人

(戦国武将の明暗 新潮社 27 年 3 月)

- 少年時代 3 藤子不二雄[Ⓐ]著 (復刊ドットコム刊 26年9月)
- 高岡で講演した柳田国男 (太田久夫 とやま民俗 82号 26年9月)
- 藤子・F・不二雄 楠部三吉郎著 (「ドラえもん」への感謝状 小学館刊 26年9月)
- 藤子不二雄[Ⓐ] 『まんが道』 齋藤孝著 (自伝を読む 筑摩書房刊 26年10月)
- 富山の茶室 (口絵解説) (太田久夫 富山教育 919号 26年11月)
- 越中国府 今をつなぐもの 萬葉覽古 正和勝之助著 (桂書房刊 26年2月)
- 歌の道 家持へ、家持から 高岡市萬葉歴史館叢書 26 (高岡市萬葉歴史館編刊 26年3月)
- 万葉の愛 (高岡市萬葉歴史館編刊 27年3月)
- 高岡市萬葉歴史館紀要 第24、25号 (高岡市萬葉歴史館編刊 26年3月、27年3月)
- 大伴家持の「天平二十年正月歌」 井ノ口史 (高岡市萬葉歴史館紀要 25号 27年3月)
- 越中万葉を楽しむ 越中万葉かるた 100首と遊び方 (高岡市萬葉歴史館論集 別冊2) 坂本信幸ほか執筆 (笠間書院刊 26年3月)
- 越中中世城郭図面集 3 西部 (氷見市・高岡市・小矢部市・砺波市・南砺市)・補遺編 佐伯哲也著 (桂書房刊 25年11月)
- 近世初期加賀藩の新田開発と石高の研究 今村郁子著 (桂書房刊 26年1月)
- 幕末の加賀藩と越中国 ～異国船襲来の危機と従卒の育成 (明神博幸 高岡の図書館 97号 26年7月)
- 高岡ミニ人物史 94 神ながらの道を説いた 関守一 (押川千陽 高岡の図書館 98号 26年7月)
- 上町のあゆみ 伏木曳山祭 高岡市指定無形民俗文化財 (上町花山車保存会編刊 26年3月)
- 近世越中の神社鍵取役 松山充宏 (とやま民俗 81号 26年1月)
- 富山県 (富山県立図書館・高岡市立中央図書館・富山県立図書館) 翠川文字 (香道文献目録 所蔵館別 香書に親しむ会 27年2月)
- 高岡鑄物師の恵比寿講再現御膳 平成26年度 地域の文化遺産継承事業報告 地域の文化遺産継承事業実行委員会 (編) (金屋町まちづくり協議会刊 27年3月)
- 高岡 平成の御車山制作 車輪彩る桜金具完成 金工と鑄物 「匠の技」融合 (富山新聞 25年10月22日)
- 江戸末期町名を復活 高岡住居表示審で市が素案 (北日本新聞 25年8月27日)
- 弓の清水や私塾「混放洞」 デジタル紙芝居ふるさと紹介 高岡・中田婦人会 19日、交流会でお披露目 (富山新聞 26年1月16日)
- 三協立山「竹平政太郎記念室」開設 高岡・金屋町 創業の歴史紹介 (北日本新聞 26年3月25日)
- 江戸の「天神講」再現 高岡・山町筋の天神様祭 平米小児童ら けん玉・めんこに夢中 (北日本新聞 26年1月27日)
- 利長の遺徳しのぶ 高岡関野神社で没後400年祭 (北日本新聞 26年5月20日)
- 平成の大修理進む高岡・勝興寺 渡り廊下復元へ 礎石発見 配置明らかに (北日本新聞 26年1月25日)
- 越中エル・ドラド ふるさとの歴史秘話 6 県内初の中越鉄道 高峰譲吉が造った黒部鉄道 (北日本新聞 26年7月10日～12月25日のうち)
- 越中三大山城の一つ 守山城跡を市史跡へ 高岡市教委 二上山に広く遺構詳細調査 新年度に報告 (富山新聞 26年3月13日)
- 旧町名復活の動き応援 高岡市長会見 袋町承認「大変うれしい」 財政支援や制度対応の方針 (北日本新聞 26年6月10日)
- 防空壕の調査開始 高岡・伏木 レーダーで形状確認 埋め戻しへ方法検討 (富山新聞 26年6月25日)
- 十字紋刻印の石 高山右近ゆかり 高岡の土肥さん 漆と黄銅鉾確認 (北日本新聞 26年7月1日)
- 前田利長 唯一の実子 満姫改葬の記事 土蔵に 高岡・本陽寺 歴代住職が保存 (北日本新聞 26年7月31日)
- 国泰寺と末寺の全生庵 出町 譲 (北日本新聞 26年8月13日)
- 平米町調査で入札 高岡・旧町名復活 (北日本新聞 26年8月13日)
- 「有磯海」由来説明 新谷さん講演会 県郷土史会 富山 (北日本新聞 26年9月19日)
- 高岡古城公園 国史跡に 文化審答申 400年前の水濠 郭残る (北日本新聞 26年11月22日)

『郷土の文化 第40輯、第41輯』(26年、27年刊)より27年3月までを抜粋

||||| 調査相談の窓口から |||||

…… おたずねくださいQ&A (中央図書館) ……

図書館は、様々な年代の方がご利用されます。
寄せられた質問は、郷土関係だけではなく、身近な疑問を持って図書館で資料を求められる場合もあります。
今回は、大人から子どもまで幅広い年代の方からの質問を取り上げます。

レファレンスの例

Q：高岡市の開町 300 年の記念行事が行われた日を知りたい。

A：『高岡四〇〇年のあゆみ』に記載あり。
「大正 2 年・・・ 9 月 10 日から 13 日まで高岡市は「開町三百年祭」を全市あげて盛大に挙行・・・」とある。前田利長が入城した慶長 14 (1609) 年から数えると 300 年は明治 42 年だが、その年、皇太子殿下の北陸行啓と重なり、また明治天皇の崩御が続いたため、喪が明けのを待って、大正に入り開催されたようである。

Q：高岡市広小路は、昭和 41 年の住居表示変更前の町名は何か。

A：『角川日本地名大辞典 16 富山県』によると、広小路は様々な変遷をとげていることがわかる。もとは掛開発（かけかいほつ）村の大字渚分（あわらぶん）。大正 6 年からは渚町となる。昭和 22 年頃よりこの地区は本町・曙町・仲町など、新しい町が分立。昭和 28 年には本町 1～4 丁目になり、同 33 年に本町 3～4 丁目を広小路 1～3 丁目と称した。その後、昭和 34 年広小路 1～3 区と改称する。変遷をとげた背景には、道路交通網が整備され発展を遂げたことなどがある。現在の広小路の成立は昭和 41 年 12 月 1 日とあるが、昭和 41～42 年には、一部は現行の本丸町・あわら町・丸の内の各一部ともなった。

Q：さるのこしかけの薬効について書いてある資料はないか。

A：『日本語大辞典』によると、「担子菌類サルノコシカケ目に属するキノコのうち、硬質で多年生のキノコの総称・・・発汗・利尿など薬用ともなる」とある。サルノコシカケ科に属するキノコについて書かれている資料、“漢方”や“薬になる植物”について書かれている資料を探す。『漢方のくすりの事典』には、サルノコシカケ科のキノコの種類に触れてあり、効能としては「日本の民間薬であり、かつては解熱薬、心臓病や半身不随の治療薬として用いられたが、近年では専ら抗癌薬としてよく知られている」と記載されている。その他『薬になる植物図鑑』、『家庭で使える薬用植物大事典』、『薬草カラー大事典』などを提供した。

Q：富山県の活断層がわかる資料が見たい。

A：質問者は小学生（高学年）で学校の課題とのこと。小学生でも理解できる資料を中心に探す。キーワード「活断層」「地学」などで検索。『日本の地震地図』には東海・中部・北陸の過去の地震発生地図や活断層帯の地図あり。『富山地学紀行』では日本列島のプレートとその動き、中部地方の付加体区分図等の記載あり。他、最近の新聞記事で県内の活断層が掲載されている記事をいくつか閲覧された。

(北 智恵 記)

臨済宗国泰寺派第 62 世管長

いな ば しん でん
 稲 葉 心 田
 (1906 ~ 1986)



宗教家。道号は心田、法諱は元明。室号蟠龍窟。俗姓稲葉。

1906年(明治39)愛知県葉栗郡葉栗村(現一宮市)に生まれる。稲葉司馬太郎2男。

1915年(大正4)大阪、千利休の墓のある

南宗寺に入門。南宗寺住職は台湾に寺を建てる。心田は10歳で台湾に渡り、長谷慈円禅師(台湾臨済寺住職)の従弟として得度。1918年禅師還化のため、後の相国寺派管長山崎大耕の弟子となる。台湾で小学校、中学校を卒業し、9年後の1924年日本に帰る。同年、臨済宗大学(現花園大学)に進学。1929年(昭和4)臨済宗京都五山のひとつ嵯峨天龍寺塔頭慈濟院の住職となる。心田は、傑出した高僧として知られる前天龍寺派管長関精拙の直弟子で、格調高い説法はひろく関西の信者に知られ、帰依する人が多くいた。

1964年(昭和39)5月、臨済宗国泰寺派本山の第62世管長に就任(61歳)。急行「きたぐに」で高岡に着き、駅長室で記者会見を開く。1967年、インド仏蹟奉拝。それから数年を経て、2回目のインド訪問。訪れるたびに、ハンセン病院に寄付をする。バーミアンの古い石仏に献茶をし、読経する姿はのちに日本の雑誌に掲載されたと、心田が天龍寺滋濟院の住職であったころから指南を頂いていたという高瀬重雄が『富山史壇』に書いている。

1968年頃より、氷見市の「野の草作業所」に物心両面の支援をした。1972年には富山県初となる通園施設「氷見市野の草学園」となり、堀埜市長が、この施設は稲葉管長の筆の滴が集まって出来上がったものですと竣工式挨拶で話した。また、国泰寺を訪れる信者は引きも切らず、各方面の教育機関、会社関係から、次々と研修に来る。広く禅堂を開放して、多くの団体・個人の座禅指導をし伝道強化活動を展開。各地で心田会・座禅会などの法座を開く。書画をよくし、墨蹟展を随所で開催。東京銀座で1週間

墨蹟展を開き、毎日法話をする。心田は、のちにこれを昭和の辻説法と話している。収益金は社会福祉、寺の再建・改修などに役立てられた。1975年(昭和50)6月、国泰寺を開山した滋雲妙意の生誕700年祝賀法要を営んだ。多くの人が集まり、入りきれない人のために山門近くにスピーカーを設置する。1981年1月に国泰寺機関誌『清泉』創刊。同年12月、タイ国のワット妙心の落成祝賀施設団(心田名誉団長)が国際臨済宗禅交流協会から派遣された。カンボジア難民救済活動を行い、稲葉就園基金を設置し、ワット妙心の落慶供養の導師をつとめる。

摩頂山国泰寺は、1304年(嘉元2)に滋雲妙意禅師が創建した東松寺がはじまり。臨済宗国泰寺派の、県内唯一の大本山。明治維新以来、全国に広まった廃仏毀釈の余波を受け維持が困難となる。55代雪門は、山岡鉄舟の協力で天皇殿などの再建をする。62代心田に至って観音像(1967)月泉庭・龍淵池(1974)、庫裏・台所・宿泊所(1975)利生塔(1984)の建設、改修等を行う。3年の年月をかけ、平和と生命尊重のシンボルとして建てられた利生塔の落慶法要が、1984年9月盛大に営まれた。病身を車椅子に託して落慶法要の導師を務める。その後、静養のため京都に移住。1986年(昭和61)1月19日、還化。享年79歳。本葬津送式が3月8日国泰寺で営まれ、80人の住職が「真大非呪」を読経するなか、各界から約1000人が焼香した。国泰寺の再興をはじめ、幅広い活動に見られた人間愛の精神と業績を偲んだ。

同年10月、国泰寺機関誌『清泉』を基にした『心眼をひらく』が発行される。そのなかで心田は「私が歩んできた道が達磨の教えの道であります。」「寺は死んだ人の相手だけでなく、生きておる人の心の眼一心眼をひらく、これが寺としての一番の大事。」と書いている。

【参考資料】 『心眼をひらく』『野の草学園あゆみとおもいで』『富山大百科事典』『全国寺院名鑑』『富山の寺社』『富山新聞 S39.5他』

(横 効子 記)

お知らせ

行事予定 (変更になる場合があります)

中央図書館

- えほんのじかん 毎週月～金曜日
(祝日、第4月曜日を除く)
午前11時～15分程度
- えほんの広場 毎週土、日曜日、祝日
午前11時～30分程度
- おはなし会 毎月第1土曜日
午後2時～2時30分
- 図書館ボランティア「おはなし会」 毎月第2土曜日
午後2時～2時30分
- おはなしポケット 毎月第3土曜日
午後1時30分～2時
- どんぐりコロコロ (人形劇) 毎月第4土曜日
午後2時～2時30分
- 高岡婦人読書会 毎月第3水曜日 午後2時～
- 「古文書を学ぶ会」 7月9日(土) 7月30日(土)
9月10日(土) 午前10時～11時30分

伏木図書館

- こども読み聞かせ会 毎週土曜日
午前11時～
- 古典の会 毎月第2日曜日
午前10時～
- 読書会 毎月第3土曜日(8月なし)
午後1時30分～

戸出図書館

- こども読み聞かせ会 毎週土曜日
午前11時～
- おはなし会 8月24日(水) 午後1時30分
会場：戸出児童センター

中田図書館

- 子ども読み聞かせ会 毎週土曜日
午前10時30分～
- 夏休み子ども読書カード
7月9日(土)～8月31日(水)まで

福岡図書館

- おはなしの部屋(読み聞かせ等) 毎週土曜日
午前11時～
- こどものブックマラソン《チャレンジ2016》
8月31日(水)まで

古文書で学ぶ高岡の歴史
高岡市史料集解説講座 高岡市史料集 第27集より
11月12日(土) 午前10時から11時30分まで、
高岡市生涯学習センター5階研修室501において
講師の山崎明代さん(『高岡市史料集』解説講師)
に古文書の解説をしていただきます。
受講料は無料です。

※ 中央図書館は毎月第4月曜日のみ休館します。(年末年始 12月29日～1月3日休館)

伏木・戸出・中田・福岡図書館利用案内

7月							8月							9月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
					1	2			①	②	3	4	5	6					1	2	3
3	④	⑤	6	7	8	9	7	⑧	⑨	10	⑪	⑫	13	4	⑤	⑥	7	8	9	10	
10	⑪	⑫	13	14	15	16	14	⑮	⑯	17	18	19	20	11	⑫	⑬	14	15	16	17	
⑰	⑱	⑲	⑳	21	22	23	⑳	22	㉓	24	25	26	27	⑱	⑲	㉒	㉓	㉔	㉕	24	
24	⑳	㉑	27	28	29	30	28	㉑	㉒	31	25	㉑	㉒	28	29	30					
31																					
10月							11月							12月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
						1				①	2	③	④	5					1	2	3
2	③	④	5	6	7	8	6	⑦	⑧	9	10	11	12	4	⑤	⑥	7	8	9	10	
9	⑩	⑪	⑫	13	14	15	13	⑭	⑮	16	17	18	19	11	⑫	⑬	14	15	16	17	
⑯	17	⑱	19	20	21	22	⑳	21	㉒	㉓	㉔	25	26	⑱	19	⑳	21	22	㉓	24	
23	⑳	㉑	26	27	28	29	27	㉑	㉒	30	25	㉑	㉒	28	㉑	㉒	㉓				
30	㉑																				

○印は伏木・戸出・中田図書館の休館日 □印は福岡図書館の休館日

高岡市立中央図書館	〒933-0023 末広町1-7	TEL (0766) 20-1818	FAX (0766) 20-1819
高岡市立伏木図書館	〒933-0104 伏木湊町13-1	TEL (0766) 44-0073	FAX (0766) 44-0073
高岡市立戸出図書館	〒939-1104 戸出町3-19-29	TEL (0766) 63-1254	FAX (0766) 63-1254
高岡市立中田図書館	〒939-1272 下麻生1108	TEL (0766) 36-0054	FAX (0766) 36-0054
高岡市立福岡図書館	〒939-0132 福岡町大滝44	TEL (0766) 64-1034	FAX (0766) 64-1038